

はじめに

日本では年々、人口の減少が続いています。この人口減少によって、すでに社会のさまざまな場面で問題が起こっていて、これからも多くの問題が引き起こされるといわれています。

例えば、人口が減ると働く人が減ります。働く人が減ると、多くの業種で人手不足になります。人手不足になると、会社などは活動できなくなり、経済は低迷してしまうかもしれません。社会にとって人口減少はいいことがない、と悲観的に報道されることもあります。

こうした人口減少にもとづく未来予測は、人口統計データをもとにしたシミュレーションです。現在では、国や自治体、企業などが、人口減少の問題に対して、さまざまな取り組みをはじめています。そうした取り組みや時代の変化によって、人口減少のスピードがゆるやかになったり、止まったりする可能性があります。また、人口が減少していくなかでも、技術の進歩や社会の仕組みを変えることで、暮らしを豊かにする方法も考えられています。

まずは、この本で日本の現状を知り、未来のために、日本社会がかかえる人口減少の問題をみんなで考えていきましょう。

もくじ

日本の未来が危ない!? 人口減少社会

2 「買い物弱者」ってなに? ほか

はじめに

なぜ人口が減っているの? 6

働く人の数は減っているの? 8

タクシーがひろえない!? 10

人手不足で倒産の危機!? 12

なじみのお店が次つぎ廃業!? 14

地元の電車が廃線に!? 16

バスも次つぎ廃止に!? 18

「介護離職」ってなに? 20

水道管がこわれたら、誰がなおす? 22

「買い物弱者」ってなに? 24

銀行も郵便局も大行列!? 26

将来、年金はもらえるの? 28

未来のための選択 そのサービス、必要ですか? 30

さくいん

※本書に掲載されているデータや情報は、原稿執筆時のもので、現状と一致しない場合があります。

おもな登場人物



リク

人口減少の進む地方のまちの出身。大学から東京に出てきて、そのまま東京の企業に就職が決まった。ミサキと幼なじみ。



ミサキ

人口減少の進む地方のまちの出身。地元の大学に進学し、地元企業に就職。配属が東京支店になり、上京することになった。



リクの母

リクの姉



ミサキの母

ミサキの弟



ミサキの友人



リクの上司・同僚



なぜ人口が減っているの？

進む「少子高齢化」

日本の人口は、2008年の1億2808万人をピークに減少しはじめ、2024年3月1日現在、1億2400万人となっています。厚生労働省の機関である、国立社会保障・人口問題研究所による2023年の推計では、2056年に日本の人口が1億人を割りこむと考えられています。

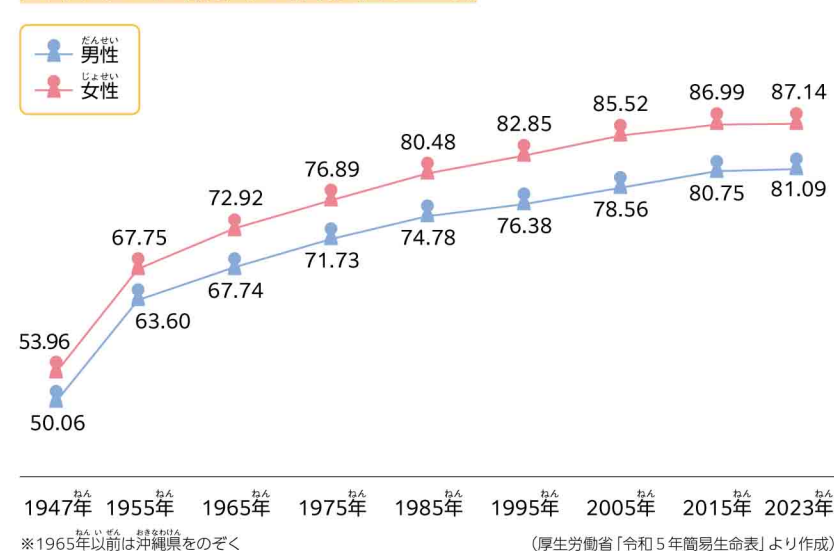
日本の人口減少の大きな理由の一つが、「少子高齢化」です。亡くなる高齢者が増えて、新しく生まれる人が減ると、将来的

に人口減少が深刻化していきます。

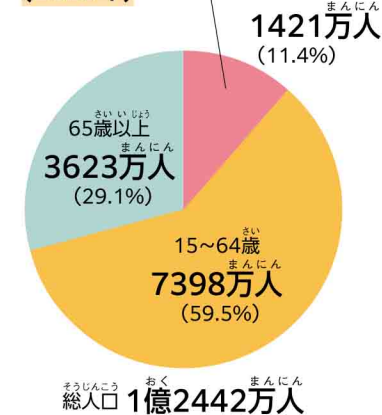
第二次世界大戦後の1947年に男女とも約50年だった平均寿命は、医療の進歩などもあり、2023年には男性81.09年、女性87.14年にまで伸びました。今や総人口の約30%が65歳以上の高齢者です。

一方で、子どもの数は減りつづけていて、2023年9月15日現在の15歳未満人口は、第2次世界大戦後最少の1421万人、総人口に占める割合は11.4%です。

日本人の平均寿命の推移(単位: 年)



日本の人口の年代別割合 (2023年)



※2023年9月15日時点の人口にもとづく
(総務省「統計トピックスNo.138 統計からみた我が国の高齢者」より作成)

上がらない出生率

特定の年齢の1人の女性が一生のあいだに生む子どもの数を「合計特殊出生率*」(以下、出生率)といいます。2人が結婚して子どもを生むと考え、2人以上の子どもを生まないと人口が増えません。しかし、1947年に4.54だった日本の出生率は、2023年現在は1.20と、人口を維持するために必要な2.07を下回っています。

出生率が下がっている理由の一つに、「未婚化・晩婚化」、つまり結婚しない人や初婚年齢が高くなる人が増え、子どもをも

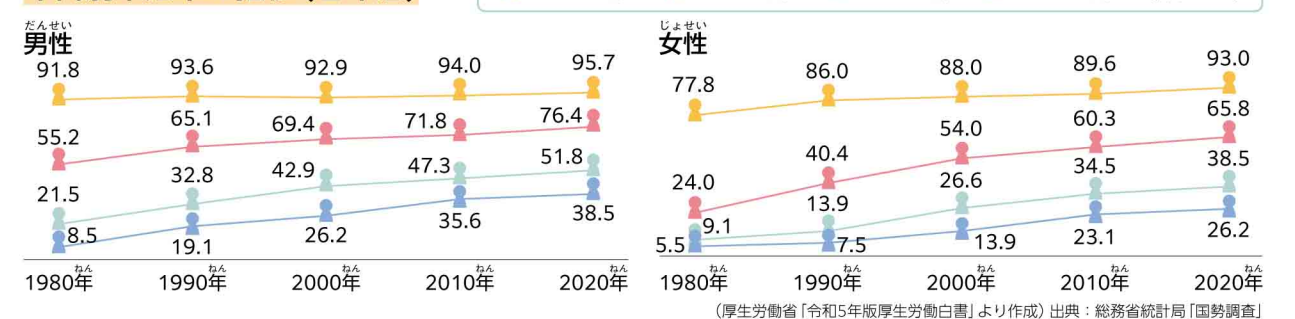
つ機会が減ったことがあげられます。

2020年のデータでは、25~29歳の男性の76.4%、女性の65.8%が結婚をしておらず、1980年と比べて大幅に増えています。「結婚をして家庭をもつ」という、かつて当たり前とされてきたライフスタイルが多様化してきているのです。

ほかにも、子育てや教育にかかる金銭的負担の重さも理由の一つにあげられます。

*合計特殊出生率: 調べた年の15~49歳のすべての女性の年齢別出生率を合計したもの

年代別未婚率の推移(若年層)



出生率の地域格差

2023年の出生率を都道府県別に見てみると、もっとも低いのが東京都の0.99、もっとも高いのは沖縄県の1.60です。親の両親など、子育てを支える親族が近くにいることが多い地方は出生率が高くなる一方で、一人暮らしの

人や共働き夫婦が多い大都市圏は出生率が低くなると考えられています。

人口減少がいちじるしい地域では、そもそも子どもを生む人も少ないのが現状で、2023年の出生数が10人未満という自治体が149もあります*。

*総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(令和6年1月1日現在)」より

地元の電車が 廃線に!?



鉄道がどんどん廃線に

明治時代に開業した日本の鉄道は、人びとの移動の足として発達してきました。しかし、利用者の減少により廃線となる路線が増え、2000～2023年度の間に、約1200km分の路線がなくなりました。

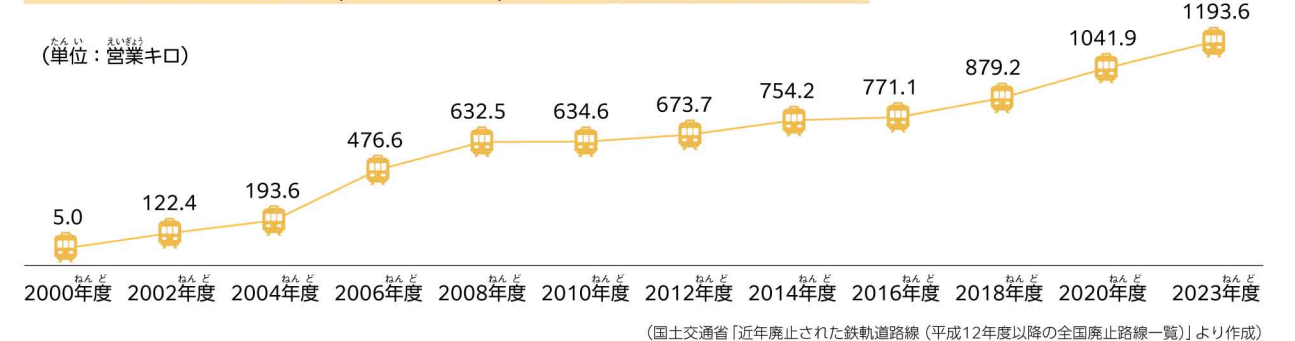
大きな原因の一つは、やはり人口減少です。もともと地方のローカル線は利用者が少なく、大都市を走る路線の利益で地方の赤字をおぎなってきました。しかし、沿線の人口がさらに減少したこと、自動車中心

のまちづくりが進められたことなどで、大都市の利益ではおぎなえないほど赤字がふくらんでいきました。

今では多くのローカル線で、廃線や駅の廃止が行われ、運営をJRなどから地元の自治体などが出資する企業に切りかえる「第3セクター化」も進んでいます。

また、運転士が不足したり、駅員が配置されない無人駅が増加したりするなど、鉄道業界も人手不足が問題となっています。

全国の鉄道廃止路線長(路線の長さ)の推移(2000年度からの累計)



まちに合った交通手段へ

沿線の人口が少なく、利用者の減少から廃線となった路線の場合、利用者を増やすことは期待できないため、路線を復活させるのは困難です。路線の復活よりも実現可能な交通手段を、地域が一体となって模索していくことが重要です。

例えば、鉄道の代わりに路線バスを導入するのも一つの方法ですし、地域の特性に合わせ、利用者の予約に応じて運行する「デマンド交通」を導入する自治体もあります。地域の事情に合わせた交通手段に、今後は置きかわっていくでしょう。